

平成29年度「学びのひろば」リンゴの木プロジェクト企画書

グループA

グループの活動内容(取り組む課題の現状・問題意識を含む)

日々の業務において教員より業務の担当部署に関する質問や教員が行うべき申請手続きに関する質問が多く、周知の徹底の必要性を感じた。そこで、教員が実際に何を疑問としているか、またどういった情報を必要としているかを把握するために、教員にアンケート等を取り、内容を集約した問合せ用マニュアル(Q&A集)を作成する。

また、イレギュラーな事例にも対応するため、常時不明点・疑問点を投函できる教員用の意見箱やスペースを設け、それらをまとめたデータを教員用のページとして本学ウェブサイト(教職員限定)に掲載することも将来的に視野に入れている。

活動計画(どのように課題を解決するか)

まず、Q&A集を作成するために8月に各部局の教員にGoogleフォームで現在の業務に対する疑問点等をアンケートし、日常の業務に関する問題点・意見を洗い出す。また、回答状況によっては個別に教員・職員へのヒアリングも計画し、教員と事務職員が一体となって問題解決ができるように働きかける。

8月から9月の中間報告会前までに、アンケートおよびヒアリング内容をまとめ、以後のスケジュールを確定する。

期待される効果、目標等

教員の業務上の不明点・疑問点を明確にし、Q&A集としてまとめることで教員の学内事務手続きにおける利便性の向上・職務の効率化をめざすとともに、職員の業務負担軽減を図る。

平成29年度「学びのひろば」リンゴの木プロジェクト企画書

グループB

グループの活動内容(取り組む課題の現状・問題意識を含む)

現状ではほとんど管理・整備されていない、もしくはできていない学内の樹木や雑草に関し、その現状や課題(例:屋上に落ち葉が堆積することによる雨漏れ、雑草による通行障害、等)の把握と、改善策等についての検討を行う

活動計画(どのように課題を解決するか)

- ・ 学内の樹木に関する経緯と現状の把握
- ・ 学内の樹木の管理についての意見を教員や施設部や各部局会計担当の職員より収集
- ・ 今後の管理方法に関するシミュレーション、教員等へのヒアリング
- ・ 経緯や現状についての情報収集について中間報告し、最終発表ではその最終まとめと管理方法、改善策等についての検討結果を発表する

期待される効果、目標等

- ・ 学内の木々や雑草の現状に関する学内認知(教職員ページに掲載する、等)
- ・ 整備不足になっている木々や雑草の伐採等の提案
- ・ 本プロジェクト後も環境整備が続くような仕組みの提案

平成29年度「学びのひろば」リンゴの木プロジェクト企画書

グループC

グループの活動内容(取り組む課題の現状・問題意識を含む)

学内のことにも関わらず他部署のことに関心がない、もしくは知る術がない等の理由から大学内の特色・概要のことを外部の人に職員が説明できないという問題。ウェブサイト等にも体系的にまとめた情報がなく、大学の特色・PRポイントを発信できていない。また、各部署でアンケートを行っているが、情報公開がないため、必要な情報が職員に行き届いていない。

そこで、大学の現状を知らない状態では、大学の未来を考える職員にはなれないと思い、下記の活動を行う。

- ・YNUの特色・PRポイントを集めたデータ集の作成

データ集の配布対象は、現役教職員とする。

このデータ集を通じて、現役職員の大学に対する関心・愛着も醸成する。

活動計画(どのように課題を解決するか)

資格合格率や学生の地域貢献活動など、アピールできるポイントを各部署から集める。

集めたデータをそのまま掲載するばかりでなく、YNUの特色や現状を知ることができるデータ集となるように、過去のデータとの比較(昨年度比)等を行い、YNUが成長している点などを把握・理解した上で作成する。

データは、HPへの掲載や冊子の作成等を行い、何らかの形にする予定。

期待される効果、目標等

大学の魅力を学内の教職員に知ってもらう。大学のブランドの確立に貢献する。

将来的には、寄附につながる人に対し、大学のPRポイントを売り込むためにも利用できるようなものにする。